

【ひらがなの書き】

文字を書けるようになるには、文字をなぞることの繰り返しではなく、発達段階にあった練習が必要です。なぞり書きができる、見本を真似して書くことができるだけでは、「文字の形が書けるようになっている」だけで、文章を書くことにはつながりません。本人の発達段階に合わせ、意味を理解しながら書く練習も行いましょう。

文字がうまく書けない原因として、手先の不器用さがある場合も考えられます。その場合、小さな字で書くことや、とめ・はね・はらいを丁寧にする、書き順、鉛筆の持ち方等を細かく指導することで、本人が書くことに苦手さを感じてしまい、学習がうまく進まないことがあります。本人の苦手さを理解した上で、負担にならないようにスモールステップでの指導を進めていきましょう。

ひらがなを習得する過程では、始点や終点を示すか、どのタイミングで言葉かけをするか、等の指導者の手立てによって少しずつステップアップしていくことができます。本人のひらがなに対する興味が高まってきたようなタイミングで、効果的に書きの練習を取り入れていきましょう。